

調査研究推進委員会セミナー開催報告

研究倫理セミナー「研究とその指導に必須の注意事項」

主催：日本語教育学会 調査研究推進委員会

日時：2021年11月28日(日)12:40~13:20

開催形式：zoom

参加者：最大60名(途中退出者ならびに委員含む)

本セミナーは、研究倫理に関する問題意識を共有し、調査研究の際に留意すべき倫理面の課題や学生指導の際に求められる留意点について、会員の意識化を促し、今後の研究促進に役立てていただくことを目的に開催されました。事前に動画と資料を公開して参加者に情報を提供し、ディスカッションのためのアンケートをとって課題や疑問点等をお知らせいただきました。説明用の動画は、「調査研究編」と「指導編」で構成されています。「調査研究編」ではデータ収集や学会発表、論文作成・投稿などにおける研究倫理を取り上げました。そして、「指導編」では学部生・大学院生の指導者が留意すべき点、またハラスメントが起こる危険性について紹介しました。これは昨今の社会情勢等を鑑み、ハラスメントにも触れる必要があると考えたためです。

当日は、セミナーの趣旨を確認し、動画の内容に関する質問を受けつけた後、事例についてグループに分かれて話し合いました。動画の内容に関連して、「共著において、筆頭著者以外の著者名の並び順に基準はあるのか。また、researchmap等で責任著者という表示があるが、どのような役割と捉えたらよいか。」という質問があり、委員が「分野別で慣習はあるものの、規定があるわけではなく、第一著者の後に続く著者名は研究への貢献によるのが普通である。また、責任著者は論文の審査状況などのすべての通知とジャーナルから受け取る人のことである。」ということを説明しました。

その後、グループに分かれ、委員会側が用意した事例2点について話し合いました。事例の1点目は指導学生に研究テーマの変更を依頼するのはパワーハラスメントになるのか、2点目は留学生にネイティブチェックを受けさせること、そのネイティブチェックを日本人学生にさせることは、パワーハラスメントになるのか、というものでした。1点目については、研究テーマの変更を依頼するのはハラスメントになるかどうか以前に、研究分野が異なると指導が成立しないといった意見や、専門分野が異なる学生に研究テーマの変更を依頼したい気持ちはあるが、それは教員側の都合であるため、実際には言いづらいといった意見がでました。2点目については、留学生にネイティブチェックを受けさせることはハラスメントになると思わないが、誰がチェックするのかが問題となる。日本人学生に頼めない場合、教師がするしかなく、その場合には教師の負担が大きいといった意見がでました。

事後アンケートでは好意的な反応で、グループに分かれて話し合う時間を何分とるのか等の課題はあるものの、今後もこうした情報提供と共有の必要性が感じられました。

(文責：調査研究推進委員会)